

看護婦イメージに関する研究 (1)

和田佳子, 小林ミチ子, 井上正美¹⁾, 大石武信²⁾

新潟県立看護短期大学, 前新潟県立看護短期大学¹⁾, 日本大学医学部附属看護専門学校²⁾

An investigation study of the image of a nurse

Keiko WADA, Michiko KOBAYASHI, Masami INOUE¹⁾, Takenobu OHISHI²⁾

Niigata College of Nursing, Nihon University Nursing College²⁾

Summary To investigate the image of a nurse, we selected 90 pairs of adjective imaging a nurse and executed “a nurse image questionnaire” to 263 nursing students. The result using factor analysis method showed five factors (48 items), which were “professional competence”, “personality trait”, “physical burden”, “intelligence”, “occupational attractiveness”.

要約 看護婦に対するイメージを調査するために、看護婦をイメージする形容詞対 90 項目を選定し、看護学生 263 名に「看護婦イメージ質問紙」を実施した。因子分析法を用いて検討を行った結果、“専門的能力”、“人格的特性”、“身体的負担”、“知性”、“職業的魅力”の 5 因子 48 項目が抽出された。

Key words イメージ (image)
看護婦 (nurse)
因子分析 (factor analysis)

従来から、看護婦、看護職に対するイメージを測定することにより、その特徴を把握しようとするものが行われてきた。その背景としては、看護教育者や看護職従事者が看護学生を指導していく過程において、学生を多面的に理解し、指導に生かして行こうとすることから来ている。

それらの報告では、看護婦を表現している形容詞対の項目を使用して因子分析を行い、抽出された因子からその特徴を把握しようとしたものが多い。

謝花ら(1984)は、21の形容詞対を使用した因子分析を行い、“態度と行動特性”、“パーソナリティと自己向上性”、“外観的要素”、“職業的特性”の4因子を抽出している。そこで得られた因子を下位尺度として学年、動機、意思の3要因で分析を行い、“パーソナリティと自己向上性”の因子が最も重要なものであると結論づけている。

上大迫ら(1993)は、看護職イメージについては29項目での因子分析を行い、“自己実現”、“体力・知力”、“社会的貢献度”、“職場環境”の4因子を、看護婦イメージについては35項目での因子分析を行い、“親和性”、“堅実性”、“知性”、“外見性”の4因子をそれぞれ抽出している。

真鍋ら(1994)は、27の形容詞対を使用し、“働きがい”、“性格的特性”、“専門性”、“外見的特性”、“就労状況”という5因子を抽出している。

鶴田ら(1996)は、真鍋ら(1994)の27の形容詞対を使用し、“魅力”、“姿勢”、“知性”、“人間性”の4因子を抽出している。

岩永・山本(1997)は、35の形容詞対を使用し、“専門的職業イメージ”、“魅力的職業イメージ”、“温かい職業イメージ”、“社会的に認められた職業イメージ”、“厳しい職業イメージ”の6因子を抽出している。

大谷・松浦(1997)は、29対の形容詞対を使用し、“基本的職業特性”、“性格特性”、“就労状況”、“知的専門性”の4因子を抽出している。

これらの研究で抽出された因子の内容を見ると、資質に関するもの、就労状況に関するもの、職業の専門性に関するものが共通してあることから、これらの因子が看護婦イメージの代表的なものとして考えられる。

しかしながら、これらの研究で多く用いられている項目を見ると、その項目の選定方法が明らかにされていないものや、項目対が反対語になっていない

ものがある。また、因子分析の結果において、2因子間にまたがる可能性のある項目もあり、項目選定の信頼性には欠ける側面がある。さらに各項目毎(学年による差など)の分析に分散分析を使用しているものが多いが、多重比較を正しく実施しているものがなく、すなわち主効果が有意であった際に多重比較を行って各群の差を検討すべきところを、改めてt検定を行っている点(3群でも)、変化を考察するには不備がある。そして、有意傾向であった交互作用から結論を導き出そうとしていたものがあるなどから結論にはいささかの疑問がある。

そこで、今回、従来の研究で使用された項目を収集し、その中で反対語になっていない項目の修正を行い、イメージ測定のための項目を再検討し、今後、研究を進めて行く上での基本となるような信頼性の高い項目を選定することを目的として調査を行った。

方法

調査対象者：N医療技術短期大学生 99名、N看護専門学校生 110名、S看護専門学校生 54名の計 263名。

調査期間：1998年5月～6月。

調査方法：集団調査法により実施した。

調査用紙：使用した調査項目については、謝花ら(1984)、上大迫ら(1993)、真鍋ら(1994)、鶴田ら(1996)、岩永・山本(1997)、大谷・松浦(1997)など従来の研究で使用された項目と、本校基礎看護学において前年度実施した新入生アンケートの自由記述によって得られた項目との計90項目を選定し、反対語対照語辞典(北原・東郷編、1993)より修正したものを使用し「看護婦イメージ質問紙」を作成した(表1)。

イメージの測定にはSD (semantic differential) 法を用い、各項目毎に1点から7点を配した7件法で回答を求め、得点化を行った。

分析方法：全調査対象者263名のうちデータに不備のあったものを除いた243名の回答を因子分析の対象とした。因子分析に際しては、SMC (squared multiple correlation) 法による共通性の反復推定を行い3～6因子を主因子解により求め、Equamax 法による回転を行った。因子負荷量0.400未満の項目、及び2因子以上にまたがる項目を削除しながら前述の因子分析を繰り返した。統計的分析には統計パッケージPC-SAS Version6.04を使用した。

表1 看護婦イメージ質問項目

1. 重い-軽い	31. 正直な-不正直な	61. 責任感のある-責任感のない
2. 豊かな-貧しい	32. 垢抜けている-やぼったい	62. 価値のある-価値のない
3. 好きな-嫌いな	33. 主体的な-受動的な	63. 感受性のある-感受性のない
4. ユーモアのある-ユーモアのない	34. たくましい-弱々しい	64. 向上心のある-向上心のない
5. 肉体的な-精神的な	35. 安全な-危険な	65. すてきな-詰まらない
6. 大変な-ささやかな	36. 頭の良い-頭の悪い	66. 鋭い-鈍い
7. 機転のきく-機転のきかない	37. 陽気な-陰気な	67. 複雑な-単純な
8. 感性のある-感性のない	38. 楽しい-苦しい	68. 自立的な-依存的な
9. 強い-弱い	39. 動的な-静的な	69. 気が利く-気が利かない
10. 温かい-冷たい	40. 科学的な-非科学的な	70. 明るい-暗い
11. 親切な-不親切な	41. 清潔な-不潔な	71. 重要な-些細な
12. 美しい-醜い	42. 自由な-不自由な	72. 安定した-不安定な
13. やさしい-きつい	43. 協調的な-対立的な	73. 忍耐のある-忍耐のない
14. 真面目な-不真面目な	44. 論理的な-直感的な	74. 理解のある-理解のない
15. 倫理的な-非倫理的な	45. 楽な-辛い	75. お人好しな-意地悪な
16. 気が強い-気が弱い	46. 創造性のある-創造性のない	76. 冷静な-熱烈な
17. カッコいい-カッコわるい	47. 有力な-無力な	77. 頼もしい-頼りない
18. 思いやりのある-思いやりのない	48. 地位の高い-地位の低い	78. 献身的な-献身的でない
19. 現実的な-理想的な	49. 広い-狭い	79. 優れている-劣っている
20. 礼儀正しい-不作法な	50. 慎重な-軽率な	80. 勤勉な-怠惰な
21. 知的な-知的でない	51. 高尚な-低俗な	81. 面白い-詰まらない
22. 魅力のある-魅力のない	52. 軽労働な-重労働な	82. やりがいのある-やりがいのない
23. 明朗な-陰鬱な	53. 共感的な-反発的な	83. 気長な-短気な
24. 体力のある-体力のない	54. 判断力のある-判断力のない	84. 専門的な-非専門的な
25. 技術のある-技術のない	55. 生き生きした-ぐったりした	85. 知識のある-知識のない
26. 丈夫な-病弱な	56. 親しみやすい-親しみにくい	86. 賢い-愚かな
27. かわいい-憎い	57. 有益な-無益な	87. 意欲のある-意欲のない
28. 高収入な-低収入な	58. 穏やかな-激しい	88. 深い-浅い
29. 張り詰めた-緩んだ	59. 忙しい-暇な	89. 学問的な-非学問的な
30. 理性的な-感情的な	60. 機敏な-鈍重な	90. 進歩的な-保守的な

結果と考察

因子分析の結果、表2に示した通り48項目、因子数5で最適解を得た(累積寄与率84.36%)(表2)。因子の解釈及び命名は原則として因子負荷量0.400以上の項目を対象とした。

第1因子は「判断力のある-判断力のない」、「価値のある-価値のない」、「頼もしい-頼りない」などといった13項目が含まれ、「専門的能力」と命名した。これは岩永・山本(1997)の“専門的職業”に相当するものである。

第2因子は、「親切な-不親切な」、「やさしい-きつい」、「温かい-冷たい」などといった10項目が含まれ、「人格的特性」と命名した。これは真鍋ら(1994)の“性格的特性”、大谷・松浦(1997)の“性格特性”

に相当するものである。

第3因子は、「たくましい-弱々しい」、「技術のある-技術のない」、「丈夫な-病弱な」といった9項目が含まれ、「身体的負担」と命名した。これは真鍋ら(1994)の“就労状況”に相当するものである。

第4因子は、「勤勉な-怠惰な」、「知的な-知的でない」、「学問的な-非学問的な」などといった8項目が含まれ、「知性の因子」と命名した。これは鶴田ら(1996)の“知性”、大谷・松浦(1997)の“知的専門性”に相当するものである。

第5因子は、「魅力のある-魅力のない」、「楽しい-苦しい」、「地位のある-地位のない」などといった8項目が含まれ、「職業的魅力の因子」と命名した。これは鶴田ら(1996)の“魅力”、岩永・山本(1997)の“魅力的職業イメージ”に相当するものである。

以上のことから、今回の分析により抽出された48

表2 Equamax 回転後の因子負荷量

項目	FACTOR1	FACTOR2	FACTOR3	FACTOR4	FACTOR5	Communality
Q61 責任感のない-責任感のある	0.63663	0.16545	0.13700	0.32052	0.11827	0.568161
Q64 向上心のない-向上心のある	0.58903	0.28334	0.17476	0.30891	0.16300	0.579778
Q62 価値のない-価値のある	0.57579	0.17212	0.17131	0.22998	0.33295	0.554253
Q69 気が利かない-気が利く	0.55138	0.30924	0.20923	0.22464	0.12347	0.509132
Q60 鈍重な-機敏な	0.54609	0.18313	0.31000	0.24952	0.05057	0.492674
Q71 些細な-重要な	0.54079	0.10976	0.30058	0.16276	0.12395	0.436699
Q63 感受性のない-感受性のある	0.51999	0.21117	-0.01771	0.33661	0.25636	0.494323
Q55 ぐったりした-生き生きとした	0.51022	0.32992	0.20658	0.05348	0.36399	0.547204
Q50 軽率な-慎重な	0.50051	0.20696	0.14177	0.27942	0.03572	0.392796
Q54 判断力のない-判断力のある	0.48992	0.19596	0.23184	0.32909	0.18749	0.475630
Q82 やりがいのない-やりがいのある	0.47800	0.18663	0.19910	0.05972	0.40274	0.468721
Q88 浅い-深い	0.43563	0.15181	0.13899	0.36869	0.09990	0.378057
Q77 頼りない-頼もしい	0.42756	0.37945	0.21132	0.29957	0.26758	0.532791
Q11 不親切な-親切な	0.28053	0.75828	0.23250	0.16974	0.08503	0.743777
Q13 きつい-やさしい	0.05554	0.75079	0.05911	0.16792	0.09265	0.607048
Q10 冷たい-温かい	0.24032	0.72925	0.16884	0.04078	0.05720	0.623002
Q18 思いやりのない-思いやりのある	0.31234	0.67020	0.22548	0.23306	0.14570	0.673111
Q56 親しみにくい-親しみやすい	0.39503	0.52148	0.00839	0.02870	0.26604	0.499658
Q58 激しい-穏やかな	0.01991	0.51841	-0.09545	0.14405	0.23574	0.354586
Q23 陰鬱な-明朗な	0.26172	0.48458	0.31623	0.08877	0.37962	0.555308
Q75 意地悪な-お人好しな	0.04758	0.47704	-0.03261	0.09675	0.16779	0.268405
Q70 暗い-明るい	0.39153	0.47545	0.19423	0.13183	0.26058	0.502361
Q74 理解のない-理解のある	0.33861	0.45538	0.11277	0.23703	0.25056	0.453706
Q24 体力のない-体力のある	0.14964	0.25442	0.67415	0.09986	0.16501	0.578794
Q34 弱々しい-たくましい	0.09661	0.04825	0.62024	0.18449	0.15653	0.454903
Q6 ささやかな-大変な	0.12381	0.04565	0.57102	0.15436	-0.20536	0.409478
Q26 病弱な-丈夫な	0.19970	0.12857	0.53238	-0.01336	0.17121	0.369333
Q9 弱い-強い	0.08817	0.13034	0.53169	0.09975	0.06246	0.321304
Q16 気が弱い-気が強い	0.02687	-0.20299	0.46256	0.16227	0.09738	0.291699
Q25 技術のない-技術のある	0.15171	0.25623	0.43432	0.29561	0.20960	0.408625
Q52 重労働-軽労働	-0.24861	0.01351	-0.47457	-0.16470	0.26562	0.384888
Q45 辛い-楽な	-0.04177	-0.01908	-0.63439	-0.11046	0.38166	0.562424
Q86 愚かな-賢い	0.37257	0.21148	0.15046	0.60977	0.08360	0.584979
Q36 頭の悪い-頭の良い	0.29130	0.15752	0.17212	0.59304	0.12086	0.505600
Q40 非科学的な-科学的な	0.00899	-0.01005	0.00431	0.58102	0.06393	0.341867
Q79 劣っている-優れている	0.39741	0.27688	0.16324	0.55172	0.20228	0.606561
Q89 非学問的な-学問的な	0.06260	0.04214	0.11446	0.53039	0.00303	0.300114
Q80 怠惰な-勤勉な	0.37160	0.21354	0.15512	0.49091	0.07208	0.453937
Q21 知的でない-知的な	0.18340	0.25104	0.27978	0.47088	0.25161	0.459968
Q15 非論理的な-論理的な	0.11654	0.08330	0.15314	0.42306	0.00649	0.222992
Q4 エモアのない-エモアのある	0.13162	0.23001	-0.00207	-0.01994	0.53903	0.361183
Q22 魅力のない-魅力のある	0.34078	0.17509	0.37667	0.11493	0.49032	0.542289
Q38 苦しい-楽しい	0.10160	0.25973	-0.02324	0.05886	0.47741	0.309707
Q42 不自由な-自由な	0.06424	0.04414	-0.28731	-0.02032	0.45786	0.298666
Q48 地位の低い-地位の高い	0.02466	0.04081	0.18601	0.37243	0.44634	0.374793
Q3 嫌いな-好きな	0.17852	0.22660	0.07570	0.04822	0.44186	0.286513
Q28 低収入な-高収入な	-0.05300	0.00643	0.05861	0.15988	0.42409	0.211700
Q2 貧しい-豊かな	0.12759	0.06890	0.01313	0.09068	0.41621	0.202653
因子寄与	14.110472	3.133721	1.900109	1.613344	1.237051	21.556153
寄与率	0.5412	0.1202	0.0729	0.0619	0.0474	
累積寄与率	0.5412	0.6614	0.7343	0.7962	0.8436	

項目は看護婦イメージ質問項目として有効であると考えられる。本研究により、各因子に含まれている項目は必ずしも一致していないが、従来の研究で報告されたものと共通した因子が抽出された。

引用・参考文献

- 岩永秀子・山本昇：看護学生の自己教育力におよぼす看護婦イメージの影響，日本看護学教育学会誌，7(3)，17～27，1997.
- 上大迫敏子・石原俊一・中島美代子ほか：看護職イメージに関する研究(1)－看護学生における看護職イメージについて，日本看護学会 24 回集録，178～180，1993.
- 北原保雄・東郷吉男編：反対語対照語辞典，東京堂出版，1993.
- 真鍋淳子・野尻雅美・中野正孝ほか：看護学生看護婦イメージの研究，看護教育，35(6)，427～433，1994.
- 大谷和代・松浦妙子：看護学生の入学動機別看護婦イメージ等の経年的変化から探る看護教育の課題，看護展望，22(9)，78～85，1997.
- 佐脇克彦・中野正孝・佐藤有紀子ほか：大学生の保健医療従事者のイメージに関する研究(1)－看護婦(士)について，日本公衆衛生雑誌，42(10)，493，1995.
- 謝花美佐子・平良広子・案里栄子ほか：看護学生の看護婦イメージに学年別による検討－動機と意志の関連性－看護教育，25(2)，89～94，1984.
- 鶴田来美・工藤綾子・鈴木淳子ほか：短大生の学年による看護婦志向性と看護婦イメージに関する研究，順天堂医療短期大学紀要，7，72～81，1996.
- 渡邊裕美・杉山敏子・寺島美紀子ほか：看護学生の卒業時における「病院」，「患者」，「看護婦」のイメージ変化－1 年次と比較して，東北大医短部紀要，5(2)，141～148，1996.